The Report on the Villages in East China (12): Taiwan, Shanghai and the Jiangsu Province in June 2017 and March 2018.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Benn, Saiichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053363

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



華東農村訪問調査報告⑿

―― 2017年５月，2018年３月，台湾・上海市・江蘇省 ――

弁　納　才　一

はじめに

筆者は，2007年12月から約10年間，華北農村訪問調査に参加してきた[1)]。一方，その経験を踏まえて2008年３月から個人的に華東農村訪問調査を行ってきた[2)]。このうち，江蘇省無錫市の農村へは最も多く訪問して聞き取り調査を行ってきた。

そして，2015年５月下旬には長らく一緒に華北農村聞き取り調査に参加してきた田中比呂志とともに，江蘇省無錫市で農村調査を行った後，湖北省武漢市へ高速鉄道で移動して初めて華中師範大学中国農村研究院を訪問した[3)]。次いで，2017年５月，内山雅生・弁納才一・田中比呂志が上海市と無錫市を訪問した。その日程は以下のとおりである。すなわち，5月28日，成田空港近くのホテルに前泊し，翌29日に成田（NH919，9:50）から上海浦東（11:55）へ移動し，同日，上海市から無錫市へ高速鉄道で移動し，同日夕方には無錫市栄巷鎮を訪問した。30日午前，胡埭鎮馬鞍村で呉文勉などに話しを聞き，午後は栄巷鎮で栄紀仁に話しを聞いた。31日朝，高速鉄道で無錫站から漢口站へ移動した。

さらに，2018年２月27日～３月５日，台北市と台中市を訪問し[4)]，３月18日～29日，筆者が個人で上海市と江蘇省無錫市を訪問した。その旅程は，以下のとおりである。３月18日，成田空港を出発し，ほぼ定刻どおり昼頃に上海浦東国際空港に到着した。同日夕方，華東師範大学教授の張文明と意見交

換を行った。翌19日午後，上海から無錫に移動して７泊し，南禅寺や省幹部太湖療養院を参観し，馬鞍村の故呉文勉の旧宅と栄巷鎮の栄紀仁宅を訪問した。26日に無錫から上海に戻り，上海図書館で文献資料調査を行った。29日に上海を出発して成田空港へ無事に帰国した。

よって，本稿では，2017年５月と2018年３月に訪問した江蘇省無錫市・上海市・台湾における学術交流と農村訪問聞き取り調査の内容を記録することにした。

なお，本稿では，主に煩雑さを避けるために，原則として敬称を略し，算用数字と常用漢字を用いることにした。

Ⅰ　聞き取り調査

⑴　江蘇省無錫市胡埭鎮馬鞍村

聞き取り対象者：呉文勉(89歳)・王少生(85歳)
聞き取り日時：2017年５月30日(火)　10:00～11:30
聞き取り場所：江蘇省無錫市胡埭鎮馬鞍村琳達織造公司３階会議室
聞　き　手：内山雅生・弁納才一・田中比呂志・湯可可・高来東

郷鎮企業について

・無錫市内で設立された郷鎮企業には３種類あった。すなわち，郷政府や鎮政府(例えば胡埭鎮政府)が経営する企業，村民委員会(例えば馬鞍村村民委員会)が経営する企業，村民委員会の看板を掲げる村民私人企業(例えば無錫胡埭馬鞍針織品廠)である。胡埭鎮に比べて馬鞍村は相対的に経済が遅れていたので，無錫胡埭馬鞍針織品廠のような私人企業は少なかった。

琳達織造公司

・琳達織造公司の前身は，1987年春に設立された合資の無錫胡埭馬鞍針織品廠で，村民私人企業だった。その出資者は，呉浩庸(呉文勉の１人息子)・丁琴珍・丁建剛・呉徳峰の４人だった。

・呉浩庸は，小学校６年生の時に父親の呉文勉とともに東北から胡埭鎮東南の前呉村に戻ってきた。だが，東北部の黒竜江省で生まれ育ったために，無錫にやって来た当初は無錫語が全くわからず，学校や日常生活では苦労したという。そして，17～18歳頃（高校を卒業した後ということであろうか）から「胡埭襪廠」（胡埭鎮の靴下製造工場）の「機修工」（機械修理工）として働き始め，1987年春に呉浩庸を法人の代表者とする無錫胡埭馬鞍針織品廠を創設した。同工場は1990年春には香港寄川公司（董事長は汪小川）との合弁企業となり，無錫琳達織造有限公司と名称を変え，董事長は馬鞍村委書記の王秋耀，副董事長は汪小川，総経理は呉浩庸，董事会委員は馬鞍村民委員会主任の王玉峰と香港側代表の汪林彬がそれぞれ担当することになった。その後，企業体制改革によって2000年に中国資本部分は呉浩庸の所有するところとなり，さらに，合弁契約期限が満期を迎えた2004年には外資（江小川の香港資本）部分も呉浩庸の所有に帰すことになった[5]。
・丁琴珍はかつて郷鎮企業だった「胡埭襪廠」（靴下製造工場）で「生産廠長」（事実上の副工場長）を務め，また，丁建剛はその弟で，ともに胡埭鎮の東北に位置する劉塘村の出身だったが，「胡埭襪廠機修工」の責任者で，無錫胡埭馬鞍針織品廠が設立されて３～４年後に死去した。ただし，胡埭襪廠は欠損を出して倒産してしまったので，この工場は別の個人に請け負わせることになった。
・呉徳峰は，常熟人で，常熟服装紡織品市場で靴下の販売をしていて，無錫の胡埭襪廠からも靴下を買い付けていた。

⑵　江蘇省無錫市栄巷鎮

聞き取り対象者：栄紀仁
聞き取り日時：2017年５月30日㈫　15:45～17:30
聞き取り場所：江蘇省無錫市栄巷鎮梁清路梁渓農貿市場４階
聞　き　手：内山雅生・弁納才一・田中比呂志
同　席　者：湯可可・高来東（1958年生まれ）

栄徳瑢

・郷鎮企業家の栄徳瑢[6]は，無錫市政府によって「労働模範」（模範的労働者）にも選ばれたが，2017年５月現在，79歳になっており，体調不良であるために，我々が話を聞くことは難しいという。

栄紀仁

・1952年に初級中学（立信商業会計学校，校長：石朴）を卒業したが，同年，立信商業会計学校（「牌子保留（看板だけは残した）」）が公益工商中学（後に朱祥巷に移転）を併合していた。1949年の解放直後，農村では会計業務を担う人材が不足していたので，各地に会計学校が創立されていたという。
・1953年，郷の共産党青年団支部書記だった孫文良（後に郷長）の紹介により，共産党青年団に入団し，教師として「掃盲」（文盲一掃）運動に参加し，その当時，同じく教師をやっていた賈錫倫と知り合いになった。
・1954年，母親が死去すると，郷共産党書記の丁耕雲（女）が紹介状を書いてくれたので，小学校の教師になることができた。こうして，1954～58年には楊橋頭小学や徐巷小学で教師をやり，1956年からは栄巷鎮東部に位置する張巷の三支堂（祠堂）内にあった農業中学の公弁の教師となり，1957年には校長を務めた。
・1958年に聯合生産大隊に戻り，同生産大隊の共産党支部副書記になった。ちょうどその時，無錫市政府文化処秘書だった賈錫倫（梅園・楊巷の出身）が聯合生産大隊に「下放」されていた。

II　訪問地

⑵　江蘇省無錫市

2017年５月29日㈪16：30～18：00，無錫市濱湖区委員会学習文史和社会法制委員会主任の高来東（58歳）に自家用車で湯可可とともに栄巷鎮（栄毅仁記念館[8]，栄巷古鎮，栄巷古鎮文化研究会など）を案内していただいた。栄毅仁記念館は開館時間を終えていたが，急遽，特別に警備員や館内の説明・案内

員が動員されて同館内を案内していただいた。

栄巷古鎮文化研究会会長の栄華源は渡米中（病気治療のため）で，会えなかった。その代わりに，副会長の栄也熙（90歳余り）から栄家一族の歴史や近代無錫の経済動向について説明があった。無錫の栄巷鎮一帯にいる栄家一族はもともと山東省からやってきたため，栄巷古鎮文化研究会がある建物は山東風の造りになっているのだという。

ただし，無錫市濱湖区政府秘書長の銭江は端午の節句の休暇を利用して家族旅行に出かけており，不在だった。

翌30日㈫午前，高来東の自家用車で胡埭鎮馬鞍村の呉文勉の息子が経営する公司を訪問し，昼食後，養老院の無錫市濱湖区社会福利中心（**写真 1** を参照）に入居している王望栄夫妻を慰問した。夫婦 2 人の個室（比較的広いツインルーム）で，やや高級な感じだった。そして，我々が日本からのお土産を渡すと，そのお返しということで西瓜をごちそうになった。



写真 1．無錫市濱湖区社会福利中心

その後，太湖の湖畔にある呉文勉親子の邸宅(2017年５月現在，３棟を所有)を訪問した。このうち，２棟は２人の孫息子のために購入したものである。そして，午後は栄巷鎮の栄紀仁を訪ねた。

2018年２月22日に呉文勉が逝去したとの悲報に接し，同年３月に馬鞍村を訪問し，その葬儀に参列した。同年２月22日に脳溢血で突然倒れて逝去された呉文勉に弔意を表すために，湯可可に案内していただいて胡埭鎮馬鞍村を訪問することを希望し，当初，湯可可からは喪主である呉文勉の息子と連絡が取れなかったために，「胡埭的馬鞍村恐怕去不了了」という回答があったが，３月21日にようやく連絡が取れて，急遽，翌22日午前中に馬鞍村を訪問することになった。

よって，2018年３月後半は，江蘇省無錫市濱湖区の馬鞍村と栄巷鎮の２ヶ所を訪問したが，聞き取り調査は行わなかった。

19日(月)，高速鉄道で上海から無錫へ移動し，17:30頃に崇安寺生活歩行街区内にある王興記ワンタン店で食べたが，ほとんど客がいなかった。その周辺の飲食店や商店にもほとんど人の姿がなく，非常に閑散としていた。しかも，ワンタンはやや塩分が多いように感じた。その後，ほぼ１年ぶりにそのすぐ近くの「蘇寧広場」地下１階(いわゆるデパ地下)のレストランとスーパーマーケットを訪れると，若い人を中心に多くの客で賑わっていた。無錫市居住者の消費行動には明らかな変化が表れていると感じた。また，無錫市郊外にはマンションが建設中であり，無錫市の中心部には超高層ビルが林立しているが，ツインタワーのように並立する２棟の超高層ビルは建設工事が中断していた。

20日(火)，ホテルのレストランで朝食をとったが，食べている人は非常に少なかった。宿泊客もかなり少ないのであろうと思われる。５つ星ホテルで朝食付き１泊の宿泊料金が8,000円程度とかなり大幅にディスカウントされていた理由がわかったような気がした。ただし，そのレストランの取り皿やコーヒーカップなどに汚れが残っており，サービスのレベルが下がっていることを窺い知ることができる。また，ホテルに併設されていた百貨店は閉店していた。全体的に不景気感がただよっている。同日は，冷たい雨が降り，最高気温も10度に達せず，風もあり，寒さが厳しいので，午後はホテルで過ごす

ことにした。

21日㈬，地下鉄で三陽広場站から隣駅の南禅寺站まで行き，南禅寺を訪ねた。南禅寺の門前には数多くの種々雑多な店が軒を連ねており，その一画には古本屋が立ち並んでいた。地下鉄の三陽広場站と南禅寺站には地下商店街が広がっており，非常に多くの人が飲食や買い物を楽しんでおり，活気に溢れていた。ただし，この日も非常に寒さが厳しかった。

22日㈭，9：30に湯可可が濱湖区政府の銭江（56歳）・薛華（高来東の代理）とともに運転手付きの公用車でホテルまで迎えに来てくれ，馬鞍村まで送っていただいた。移動中の車中で，薛華から『濱湖漁史』[9]をいただいた。我々の車が馬鞍村の有名な「立人中学」（中学校・高校）の正門の前で待っていると，自家用車で迎えに来てくれた呉文勉の孫（30歳）が我々を故呉文勉の旧宅まで案内してくれた。故呉文勉の旧宅へ「奠儀」（香典）を持参して弔問し，呉文勉の遺影が置かれた祭壇の前で拝礼（「三礼」）をすませた後，別室で呉文勉の長男の呉浩庸らと呉文勉が武力とともに馬鞍村の調査[10]について話をしていると，呉文勉の娘婿が『中国村庄経済－無錫，保定22村調査報告（1997－1998）』[11]を持ってきて薛華に謹呈した。呉文勉が死去した２月22日から１ヵ月後の３月22日が服喪の最終日だった（祭壇が撤収される）ことから，様々な楽器で死者を送る演奏が催され，喪主の呉浩庸が弔問者らに昼食（精進料理）をふるまった。呉浩庸らと同じテーブルでごちそうになりながら，東北部から無錫にやってきて小学校に通うと，無錫語が全くわからなかったので，同級生から「蘇北人」と呼ばれたという苦労話や呉文勉についていろいろと話を聞かせてもらった。すなわち，呉浩庸らは本年（2018年）初めに家族で海南島に旅行に出かけ，呉文勉がホテルで倒れて頭を打ったものの，その時は特に異常はなかったが，無錫に帰って来てから，夜中にトイレに行こうとしてベッドから落ちて頭を打って脳溢血によって亡くなってしまったという。昼食を食べ終わってから，呉家の家譜を持ってきて参列者に披露した高齢の呉某氏に前呉巷を案内していただいた。そして，前呉巷に隣接する庄橋頭の王少生宅を不意に訪ねたが，王少生は元気そうだった。

さらに，同日午後，濱湖区にある薛華の実家（茶栽培農家で，最近，太湖の景勝地として開発整備された区域の一部となった）を訪問し，かつて利用

されていた農村の傾斜地にある石の階段や「記墩鼓戦」(戦国時代の呉越の戦い)碑(薛華が碑文を記す)を参観するとともに，摘み取ったばかりの一番茶(龍井茶)の製造(茶葉を手揉みして煎る)作業場を見学した。

そして，同日夕刻に栄巷鎮の栄紀仁宅を訪ね，2017年に亡くなられた栄紀仁夫人及び家族のことについていろいろと話を聞いた。すなわち，同夫人は心臓病を抱えており，血圧と血糖値が高かったという。また，長男の栄磊毅は癌を発症したが，良性だったので，2018年現在，化学療法による治療を受けており，日本の病院での治療も模索中である。さらに，栄磊毅の息子(栄嶸)の妻(傅春霞)が日本に行きたがっているというので，今年は家族みんなで日本旅行を計画中だという。

23日㈮，9:30にホテルのロビーで湯可可夫人と待ち合せをし，三陽広場站から地下鉄２号線に乗車して梅園開原寺站まで行き，タクシーで太湖の湖畔にある江蘇省幹部太湖療養院を訪問した。そこで保養中の湯可可と合流して同療養院内のレストランで昼食をごちそうになった。昼食後，湯可可が宿泊している部屋でしばらく歓談し，太湖周辺を散策した。

24日㈯，南禅寺の門前の古本屋街で古書を購入し，その後，郵便局で郵送した。郵便局員は１人だけで，他に客は１人もいなかった。その郵便局員の話によると，最近は郵便物の取扱量がかなり少なくなったという。手紙を出す人がいなくなったのと同時に，民間の宅配業者に配達業務が奪われているからであろう。無錫市の街中でも民間の宅配業務を行っているバイク便を多く見かけた。無錫の老舗レストランの「拱北楼」(湯可可が紹介文を寄稿している)も閉店していた(翌日は多くの客がいたので，臨時休業だったのかもしれない)。

25日㈰，終日，ホテル内で今回の上海市と江蘇省無錫市への訪問に関する記録を整理していた。なお，当日は無錫でマラソン大会が開催されたが，すでに23日に太湖の湖畔にある江蘇省幹部療養院を訪問した時もマラソン大会の準備のためであろうか，道路は渋滞が激しかった。また，前日の24日も筆者が宿泊していたホテルでマラソン大会に参加するだろうと思われる若者が宿泊していたのを見かけた。

⑵　上海市

2017年６月２日㈮，午前中に武漢から上海へ高速鉄道で移動し，午後は上海図書館で文献資料調査を行った。そして，かつて金沢大学大学院経済学研究科に留学（中途退学）していた李長国と夕方に会食した。彼は，2017年現在，上海市の日系企業で働いており，２年前から同企業の工場長を務めているという。

６月３日㈯早朝，田中比呂志が帰国し，筆者は内山雅生とともにバス（「滬唐専線」の始発バス停は上海駅南広場の浦東国際飛行場行きの始発バス停の近くに変更していた）に乗ってバス停「白銀路」で下車し，上海市嘉定区馬陸鎮石崗村の跡地を尋ねた。最近まで当該村の入り口にあった「石崗村」の石碑は無くなっていた。周辺一帯にはマンションが陸続と建設され，完全にベッドタウン化していた。バス停「希望路」の次ぎに停車するバス停は「白銀路」で，その中間のバス停「石崗」には停車しなかった。バス停「希望路」の近くにあった総合スーパーのウォルマート（Walmart，沃爾瑪）[12]は閉鎖されていた。昼食は南翔の古猗園で南翔小籠包を食べたが，週末にもかかわらず，以前に比べて客が少なく，味もレベルが低下したように感じた。

2017年６月には，全体的に上海市内のどこへ行ってもそれ以前に比べると人が少ないという印象だった。とりわけ，日本人を見かけることは全くなかった。

2018年３月19日㈪早朝，成田を出発して上海へ移動し，昼頃にホテルにチェックインした後，両替などを行うために宿泊していたホテルの近くにある銀行へ行ったが，来客数は少なかったものの，対応する窓口が少なかったために，意外にもかなり時間がかかった。また，メインストリートを散策していると，以前に比べて通行人が少ない感じがした。ドラッグストアーの中には「偽薬」のサンプルが展示された回収ボックスが設置されていた。近年，多くの中国人の訪日観光客が日本の薬を爆買いする背景を垣間見たように思われた。

同日夕方，地元民に人気があるというレストランで華東師範大学社会学系教授の張文明と食事（台湾への出張から帰国したばかりだったためか，味が濃いと感じた）をしながら，意見交換を行った際の内容は以下のとおりである。最近，上海経済が不景気であると感じているという。また，上海では，すでに不動産を購入している者が投機目的で２つ目の不動産を購入すること

が禁じられ，また，すでに購入した不動産を５年以内に販売することも禁じられているという。上海の不動産は高すぎて，若者が購入するのは難しいし，結婚に備えて不動産を購入する場合，その両親が資金援助をするのが一般的だが，そのような両親の資金援助があっても上海で不動産を購入するのは難しいなどの理由から，不動産の売買が低調となり，多くの不動産屋が店を閉めてしまったという。なお，海外へ資金を送ることも制限されているため，子息などを海外に留学させて学費などの名目で50万ドルまで送金可能であるという。

2018年現在，中国では「支付宝」(アリペイ)による支払い・決済が一般的となっており，銀行離れが急速に展開していることから，政府はアリペイに対する管理・規制強化を図ろうとしているようであるという。

一方，上海市における農村訪問調査はそう簡単ではないという。張文明が石崗村の居民委員会主任を通じてかつて筆者が話を聞いた上海市嘉定区馬陸鎮石崗村の澄村と丁家村の老人たちを探してもらった。だが，そのうちの１人は健在だが，あまり再会したくないという意思を示しており，もう１人は見つからなかった。張文明の感触によると，農村の都市化に伴って生じた様々な利害関係の矛盾から，外国人が立ち入ることに対する警戒心が非常に強くなっているのではないかということである。

張文明は，来年(2019年)，華東師範大学において国際シンポジウムを開催する予定であるという。

2018年３月26日㈪午前中，高速鉄道で無錫から上海に戻ってきた。無錫站の待合室は乗客でごった返しており，車輌内はほぼ満席だった。３月28日㈬夕方，再び張文明と食事をしながら，意見交換を行った。

⑶　台湾

2018年２月27日㈫，朝に田中比呂志とともに羽田空港から台湾の松山空港へ飛び，午後は中央研究院近代史研究所に張啓雄先生を訪ね，同台湾史研究所まで連れて行っていただき，鍾淑敏先生を訪ねたが，あいにく出張中で面会することができなかったものの，予定していた文献資料を複写・収集することはできた。

28日㈬，午前は２･28和平公園と２･28記念館を参観し，午後はサバティカルを利用して中央研究院近代史研究所に研修に来ていた長崎県立大学教授の祁建民と意見交換を行った。最近の中国・台湾の政治的関係に影響を受けて，中国大陸出身の研究者の台湾における研究活動にもやや支障が出ていることも聞かされた。

３月１日㈭，高速鉄道で台北站から台中站まで行き，台中站からタクシーで約１時間かけて南投県の国史館文献資料館へ行き，文献資料調査を行った。同館が所蔵する文献資料は基本的に電子化されており，自由に複写することができた。

２日㈮，午前中に高速鉄道で台中站から台北站へ戻り，午後は台北市の国史館で文献資料調査を行った後，同館２階の総統副総統記念館を参観した。

３日㈯は，悪天候だったために，食事以外では外出せず，終日，収集した文献資料の整理を行った。

４日㈰も，天気は回復しなかったが，淡水（紅毛城や海関など）を訪問したことがないという田中比呂志を案内しながら参観した。途中で，ゲリラ豪雨に見舞われた。

５日㈪，開通したばかりのMRT機場線で台北火車站から桃園空港まで行き，成田空港まで飛んで帰国した。

おわりに

2017年５月に筆者が内山雅生･田中比呂志と３人で江蘇省無錫市農村（胡埭鎮馬鞍村・栄巷鎮）を訪問したのが，当該農村における聞き取り調査としては最後となった。

2018年３月後半に無錫市を訪問する前に，馬鞍村の呉文勉が２月22日に逝去されたことを知り，３月22日に葬儀にも参列したことによって，馬鞍村における聞き取り調査が終了したことを改めて認識させられた。ただし，濱湖区にある薛華の実家（茶栽培農家）を参観することができたことから，今後，無錫の農村で新たな訪問調査を実施する可能性を見出すことができると思われる。

注

１）弁納が関わった華北農村訪問調査については，以下の一連の拙稿を参照されたい。拙稿「華北農村訪問調査報告⑴－2007年12月，山西省太原市・霍州市農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第１号，2008年12月)・同「華北農村訪問調査報告⑵－2008年12月，山西省太原市・平遥市・霍州市の農村」(『北陸史学』第57号，2010年７月)・同「華北農村訪問調査報告⑶－2009年12月，山西省P県の農村」(『日本海域研究』第42号，2011年３月)・同「華北農村訪問調査報告⑷－2010年８月，山西省P県の農村」(『金沢大学経済論集』第31巻第２号，2011年３月)・同「華北農村訪問調査報告⑸－2010年12月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第１号，2011年12月)・同「華北農村訪問調査報告⑹－2011年８月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第２号，2012年３月)・同「華北農村訪問調査報告⑺－2012年８月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第33巻第１号，2012年12月)・同「華北農村訪問調査報告⑻－2013年８月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第34巻第１号，2013年12月)・同「華北農村訪問調査報告⑼－2014年８月，山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第35巻第１号，2015年１月)・同「華北農村訪問調査報告⑽－2014年９月，河北省・山東省の農村」(『金沢大学経済論集』第35巻第２号，2015年３月)・同「華北農村訪問調査報告⑾－2015年９月，河北省・山西省の農村」(『金沢大学経済論集』第36巻第２号，2016年３月)・同「華北農村訪問調査⑿－2016年９月，河北省・山西省の農村」(金沢大学環日本海環境研究センター『日本海域研究』第49号，2018年３月)。

２）弁納が行った華東農村訪問調査については，以下の一連の拙稿を参照されたい。拙稿「華東農村訪問調査報告⑴－2008年３月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第１号，2008年12月)・同「華東農村訪問調査報告⑵－2008年９月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第29巻第２号，2009年３月)・同「華東農村訪問調査報告⑶－2009年３月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第30巻第１号，2009年12月)・同「華東農村訪問調査報告⑷－2010年２月・３月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第31巻第１号，2010年12月)・同「華東農村訪問調査報告⑸－2010年12月，江蘇省・上海市の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第１号，2011年12月)・同「華東農村訪問調査報告⑹－2011年11月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第32巻第２号，2012年３月)・同「華東農村訪問調査報告⑺－2012年３月，江蘇省の農村」(『北陸史学』第60号，2013年２月)・同「華東農村訪問調査報告⑻－2013年９月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第34巻第２号，2014年３月)・同「華東農村訪問調査報告⑼－2014年３月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第35巻第１号，2015年１月)・同「華東農村訪問調査報告⑽－2014年12月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第36巻第１号，2015年12月)・同「華東農村訪問調査報告(11)－2015年５月，江蘇省の農村」(『金沢大学経済論集』第36巻第１号，2015年12月)・同「消え行く華東地域の農村－江蘇省無錫県の２ヶ村を例として」(東洋文庫近代中国研究班『近代中国研究彙報』第39号，2017年３月)。

3）前掲拙稿「華東農村訪問調査報告⑾－2015年５月，江蘇省の農村」229～238頁。また，2016年10月と2017年６月に訪問した湖北省の農村については，拙稿「華中農村訪問調査報告⑴－2016年10月・2017年６月，湖北省の農村」（霞山会『中国研究論叢』第18号，2018年11月）を参照されたい。

4）今回の台湾における文献資料調査は，東洋文庫近代中国研究班の科学研究費助成事業（基盤研究（B）（一般））（研究代表者：本庄比佐子）の経費によるものである。なお，台湾については，弁納才一・古泉達矢「東南アジア・台湾における日系企業等への訪問記録－2014年３月」（『金沢大学経済論集』第35巻第１号，2015年１月）・同「台湾における日系企業等への訪問記録－2015年３月」（『金沢大学経済論集』第36巻第１号，2015年12月）・同「台湾における日系企業等へ再訪記録－2016年３月」（『日本海域研究』第48号，2017年３月），古泉達矢・弁納才一「台湾における日系企業等への再訪記録－2017年２～３月」（『日本海域研究』第49号，2018年３月）なども合わせて参照されたい。

5）呉文勉『文勉随筆』（2017年，個人出版）248～249頁。

6）高来東主編『濱湖郷企　無錫市濱湖区郷鎮企業創業発展親歴記』（中国戯劇出版社，2008年）126～135頁。

8）筆者にとっては，２回目の参観だった。前掲拙稿「華東農村訪問調査報告⑽－2014年12月，江蘇省の農村－」186頁を参照されたい。なお，栄毅仁は栄徳生の子で，「紅色資本家」と呼ばれ，1985年に共産党に入党し，やがて国家副主席となった。また，2016年には栄毅仁生誕100周年を迎えていた。

9）無錫市濱湖区政協学習文史和社会法制委員会・無錫市濱湖区档案局編著『濱湖漁史』（鳳凰出版社，2017年）。

10）呉文勉・武力『馬鞍村的百年滄桑－中国村荘経済与社会変遷研究』（中国経済出版社，2006年）。

11）中国社会科学院経済研究所“無保”調査課題組著『中国村荘経済－無錫，保定22村調査報告（1997－1998）』（中国財政経済出版社，1999年）。

12）前掲拙稿「華東農村訪問調査報告⑾－2015年５月，江蘇省の農村」239～241頁。

補記）本稿は，科学研究費助成事業（基盤研究（B）（海外学術調査）2013年度～2017年度「華北農村訪問調査による近現代中国農村社会経済史像の再構築」研究代表者：弁納才一，課題番号25301029）及び化学研究費助成事業（基盤研究（B）（一般）2018年度～2022年度「社会主語経済体制下の中国農村における社会環境の特質と変容に関する再検討」研究代表者：弁納才一，課題番号18H00876）による研究成果の一部である。